

第2回（仮称）雫石町まちづくり協働推進条例検討委員会 会議結果概要

日時：平成29年6月14日（水）午前10：00～12：15

場所：雫石町役場 3階 大会議室東側

出席者：■委員（14名）

1号委員：大村悦正、舛澤誠一、谷地良一、庄司六十四

2号委員：袖林広見、千葉茂人、澤口文香、佐々木浩子、中川真理子

3号委員：中野真知子、山崎忍、原正人

4号委員：広田純一、小野寺浩樹

■庶務担当（4名）

企画財政課地域づくり推進室：古川端琴也、柴田慈幸、藤原瑞枝、井上岳丸

■検討チーム（11名）

生涯学習課 大橋育代、佐藤洋、齊藤慶祐、川村佳樹、田村峻

NPO法人いわて地域づくり支援センター：若菜千穂

NPO法人まちサポ雫石：櫻田七海、工藤昭敏

地域づくりサポーター：増谷光記、田山まり、秀島杏奈

■欠席委員（2名）

2号委員：三輪亨

3号委員：鈴木勝

1. 開会（企画財政課長 古川端）

2. 委員長挨拶（岩手大学 広田教授）

○今日の話し合いのテーマ、話し合いのポイントについて説明。

3. 前回の振り返り

【別紙1】により、庶務担当藤原が説明

4. 協働についてのワークショップ

【別紙2】により、NPO法人いわて地域づくり支援センター若菜氏が進行
ワークのテーマ

①雫石の「協働のイメージ」…あなたが思い描く協働とは？

②「協働の主体って？」…まちづくりの主体探る。

1班：谷地良一、庄司六十四、佐々木浩子、中野真知子、原正人、柴田慈幸、大橋育代、齊藤慶祐

2班：舛澤誠一、袖林広見、山崎忍、藤原瑞枝、田村峻、佐藤洋、工藤昭敏

3班：大村悦正、千葉茂人、澤口文香、中川真理子、川村佳樹、櫻田七海

4班：増谷光記、田山まり、秀島杏奈、秋葉紗衣（岩手大学生）

(小野寺委員)

- 今日のワーク内容、次回以降のスケジュールと話し合いのポイントについて補足説明。
- 条例案のつくり方について、たたき台(条例素案)は事務局で作成し、たたき台に入れるエッセンスをこのワークショップで検討する。条例案は最後の2回の会議で検討し、まとめる。
- 検討で最も大事なものは「雫石町の協働の定義」。なぜ雫石町において協働をしなければならないのか、そして、雫石における協働とは何をすることなのか、を徹底的に議論していくことが大事。
- 委員会の全部の回を通して条例ができていくが、協働の定義がどういうものなのかを作っていく過程を考えた。
- 今日のメンバーは、前回の条例委員に加えて職員の検討チームにも入ってもらってチームを編成している。なぜメンバーをミックスしているかということ、住民側の意見と職員側の意見、お互いの意見を聞きながら刺激を受けながら議論していくことが大事なため、メンバーをミックスしている。職員は職員だけで議論してしまうと、住民の素直な声を聞かずにカタチを作ってしまうので、今回と次回は、ミックスしたチームで検討してもらおう。
- 住民も行政もお互いゼロからのスタートという気持ちで、背負っている看板は関係なく議論していただきたい。

(広田委員長)

- 協働のイメージと言われても難しい部分もあると思うが、例えばこれまで従来関わったような出来事の中で、協働と言えること、協働と言えないことを出してもらっても良い。自分が思う協働のイメージを1つだけ出すのではなく、いろんな角度から思いつく協働のイメージや出来事を複数の付箋紙に書きだすこと。
- 協働がよく分からない、というのも協働の重要なイメージ。その上で考えてみるとこんなイメージかな、という部分まで話し合えれば良い。
- 職員の中には担当の方も思うと思うが、自分の体験の中で感じた協働の出来事を書いてもらうと非常に具体的になって良い。

(若菜理事)

- 今回は、ファシリテーターは置かないで、チームの中で進行役や記録等の役割分担をして進めていただきたい。
- 気を付ける部分は、付箋紙を出し合って話をしていくと、いろいろな意見が出されるので、それも話している人以外が聞き取って付箋紙に書きとめること。そうしないと、折角のよい発言も模造紙に残らないと事務局で残せないなので、手分けをしながら出た意見をすべて書くつもりで進めること。

【グループワーク】

テーマ①雫石の「協働のイメージ」

検討結果は別紙のとおり

各班の検討を代表者が発表した。

1班：齊藤慶祐、2班：山崎忍、3班：櫻田七海、4班：秋葉沙衣・増谷光記

■ 1 班の発表概要



●雫石の「協働のイメージ」…あなたが思い描く協働とは？

【1班】

区分	コメント	追加意見
概念	<p>イメージがわからない・・・</p> <p>地域の誰もが住み良く暮らができるようになること</p> <p>行政と地域との合意</p> <p>村の役職を持ち回りで引き受ける</p> <p>日常生活では意識していないもの</p> <p>役割分担を合意して進める</p>	
行事	<p>行政区野球への参加</p> <p>御明神夏まつりへの参加</p> <p>青年会による夏まつり</p> <p>行政区の健康祭</p> <p>町民運動会</p> <p>地区民祭</p> <p>よしゃれ祭り</p> <p>夏祭り実行委員会と公民館</p> <p>体育会と公民館</p> <p>協働芸能の伝承、継承</p> <p>いろいろな実行委員会:事務局(行政)、委員(町民)</p> <p>教育振興運動</p> <p>お互いにとってプラスになることがある</p> <p>アルペンフラワーロード植栽</p>	<p>やり続けることが意味がある。</p> <p>見直しが必要、興味がないとやる気でない</p> <p>・班対抗で軽スポーツとかBBQ</p> <p>・地域コミュニティ(企画財政課)からお金</p> <p>・職員も実働部隊、町民が踊りで参加</p> <p>・商工会で実行委員会</p>
地域の環境整備	<p>災害に強くなる(津波でんでんこみたいな)</p> <p>水害で被害に遭った人を手助けする。</p> <p>必要なことで一人ではできないことを皆でやる。</p> <p>個人の生活を中心に不便を感じていることを客観的に解決すること。</p> <p>公民館周辺の草刈り</p> <p>行政区内の草刈り(道路の路肩)</p> <p>農業・農村交付金による水路・農道の補修</p> <p>堰上げ</p> <p>地区の川端の草刈り</p> <p>防災訓練への参加</p>	<p>・側溝の泥上げ</p> <p>・川払い(アユの時にクレーン?)</p> <p>・地区防災訓練</p> <p>・若い人が来ない⇒朝早くから実施</p>
子ども・お年寄り見守り活動	<p>登下校の見守り(ボランティア、スクールガード)</p> <p>各種ボランティア(社協VCへ登録)</p> <p>学校に親が言って見守りした</p> <p>スポ少</p> <p>PTAとかスポ少への参加</p> <p>お互い様情報交換会の活動(社協)・1人暮らしの老人の見守り</p> <p>お互い様情報交換会</p>	<p>どうやって住民協働として関わっているか掘り下げて協議できなかった部分</p>
行政のWSでの体験談!	<p>行政と参加者が一体で考える。</p> <p>その後どうなった?←こういうの多い</p> <p>思い起こすと商業分野についてのWSへの参加(10年以上前)</p> <p>⇒その後どうなったのか(行政として)</p> <p>会議のメンバー顔ぶれが同じ</p> <p>いろんな活動はやっているが...</p>	<p>・町民の満足度は?</p> <p>・ゴールはどこに?</p> <p>・数値ばかり、それで実際どうなるの?</p>

■ 2班の発表概要

● 雫石の「協働のイメージ」…あなたが思い描く協働とは？
【2班】

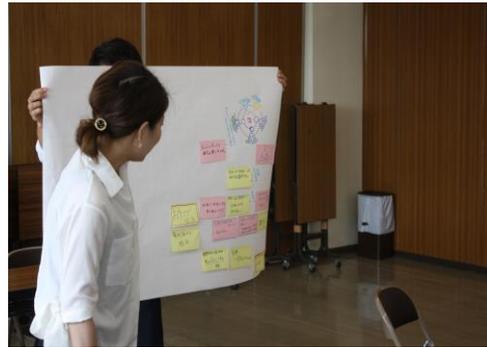
区分	コメント	追加意見
定義	<p>日頃、思っていること(不平不満)を表に出すこと</p> <p>複数の人が集まって問題を解決することが協働だと思う(昔の結いっこ)</p> <p>協働・協同・共同？一緒に何かをやる。(複数の人または団体)</p> <p>一つのことを皆でやり遂げる。</p>	<p>(条例を作るにあたって)個人では言いづらいことを出さる場、環境</p> <p>目標、目的をやる人が理解するうえで活動する効果がある。</p> <p>目的・方向・利益に向かって一緒に何かを達成すること。</p>
コミュニティ	<p>昔で言うところの結いっこ(隣近所のおせっかい)</p> <p>地域コミュニティで集まって地域で活動する(地域の協働のイメージ)</p> <p>地域で集まって話し合う⇒年々集まらなくなってきた</p> <p>新しい住民(数戸)を知らない。コミュニケーションの機会が少ない。</p> <p>過程の中でも一人でやるのではなく家族みんなでやる。</p>	<p>田植え、堰上げ…小さい範囲での助け合い。⇔半強制</p> <p>助け合わないと成り立たない⇒助け合い⇒地域つながり強化</p> <p>役員だけが地域活動している現状。一定の人だけの活動になっている。</p> <p>住民同士、地域同士のつながりがなくなるのは怖い</p>
概念 何のために協働か	<p>なんだかんだ「雫石はいいところ」の確認</p> <p>参加している人が「楽しみ、楽しさ」を何かしら持ってやること。</p> <p>⇒理想論でもある。人によって価値観が違うので同じベクトルは向かない。</p> <p>皆感じていること。前面に「雫石LOVE」を打ち出していきたい。⇒協働の推進力にしたい。</p>	<p>昔の結いは半強制</p> <p>「やらされてる」と感じたら義務・負担になっちゃうかも。</p> <p>やらなければならないこともやる。</p> <p>達成感</p> <p>半強制でも住民みんなが参加するようにしなければならない。</p>
図	 <p>役場と住民の垣根がない。不満、疑問を言い合える。</p> <p>役割も責任も負担もメリットデメリットもフラットにすること</p>	<p>A・Bは企業、コミュニティ、組合・・・</p>
疑問 協働とはどういうこと？	<p>協働という中身が良く理解できない。</p> <p>「協働」も「まちづくり」もよく分からない、表現しづらい。</p> <p>でもすでにやってる？</p> <p>EX) 老人クラブ×子ども会、企業×自治会</p>	

行政から「半強制」すると「やらされ感」になってしまうので、地域の活動から湧き出る「半強制」が理想

⇒半強制しないと「回していけない」から生まれる参加のようなもの



2班発表



3班発表

■ 3班発表概要

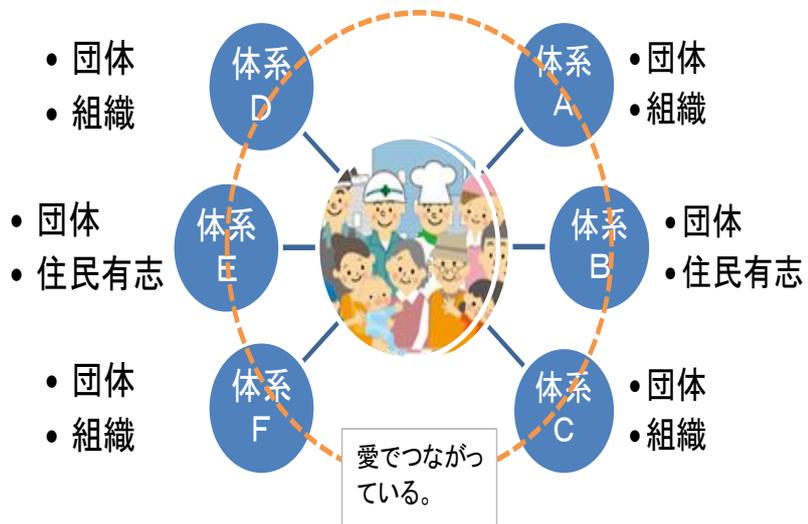
● 雫石の「協働のイメージ」…あなたが思い描く協働とは？

【3班】

コメント	追加意見
おんぶに抱っこ時代は終わったのだ	行政に頼ってばかりの住民 行政側も住民を良いように使わないこと
お互いができないことを助け合う関係的な 地域で行政とともに取り組んでいく	補いの関係
中町と指定管理者の花植え作業・中町夏祭り	伝統行事
他地域の住民と昔ながらにある行事(地域)への参加 企業と地域住民の困っている(雪かき、外出など)	
学校(部活)とボランティア 社協さん←協働して動いている	家庭科部と食の匠 花寿司 各種スポーツと外部コーチの関係性
お手上げ宣言(〇〇はできるけど、〇〇はできない、のような)	
強みを活かせる関係	
職業関係なく取り組み、様々なメリットのある関係	
協働⇒関係性を強める 頼り合える関係	
話し合う場(分かり合う場)が必要	

イメージ図

お金のメリットだけではなく、
お互いがメリットを感じられる
関係が「協働」ではないか。

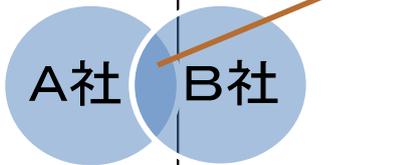


■ 4班発表概要



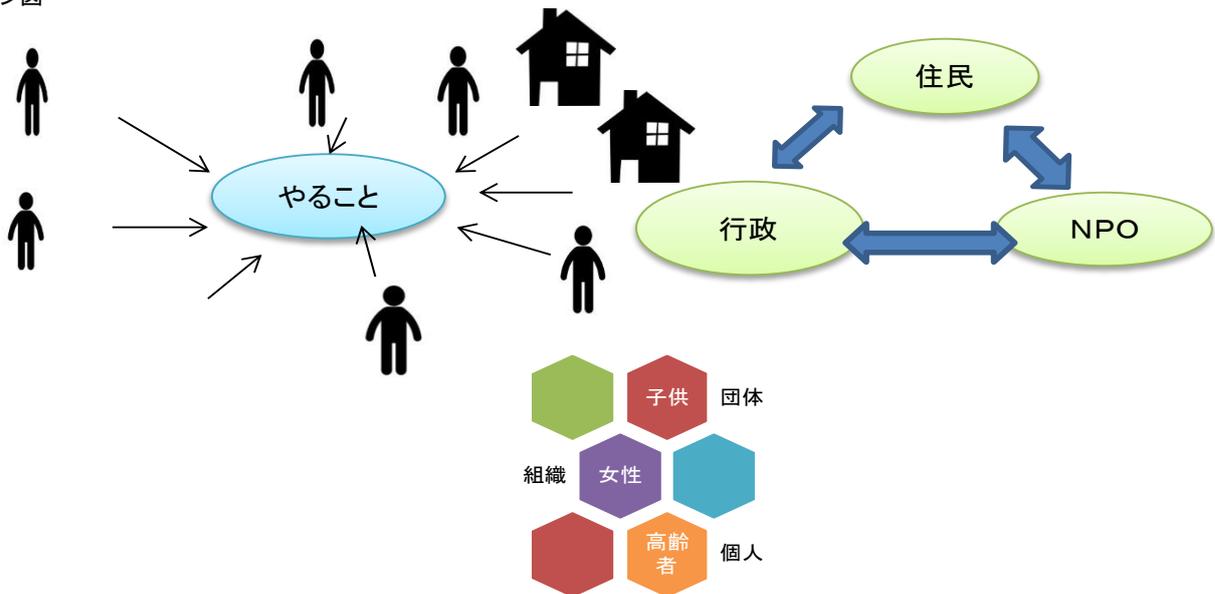
● 雫石の「協働のイメージ」…あなたが思い描く協働とは？
【4班(協力隊)】

主役は住民	<p>一つ一つのことを一緒にやる 目標が同じ人たちが一緒に動くこと 行政がサポート(必要であり、主導になりやすい?) 協力して働く 協働と総動って? 協働と協力も違うのか? 共同と協働の違いは? 農家組合や組合など? 協働?</p>	英語だと同じ
具体的な協働イメージは?	<p>スノーバスターズ(社協+ボランティア) 軽トラ市(観光商工課と住民・企業) 岩手ラボ ボランティア(弁当もらえる・需要と供給) cooperation 意思の疎通が必要、需要と供給 無駄をなくす</p>	
多様性	<p>多様性のある人が一緒に動くこと Diversity 役場・住民・外国人・少数派も障がい者、子ども、女性、いろいろな人が役割を持って動くこと?</p>	
仲良く	<p>仲良くしていないとできない 歩幅を揃える 仲良く働くこと。力を合わせること</p>	夫婦も協働 でも仲の悪い夫婦もいる



同じ部分と一緒にする。
無駄をなくす!

イメージ図



【グループワーク】

テーマ②「協働の主体って？」

検討結果は別紙のとおり

各班の検討を代表者が発表した。

1班：原正人、2班：袖林広見、3班：川村佳樹、4班：増谷光記

■ 1班の発表概要

●「協働の主体って？」…まちづくりの主体を探る

【1班】

区分	強み	課題
行政区 地区公民館 改良区	金がある(少しだけ) 職員が地元の人が多い 国からの補助金を持ってくれる WS参加者の意見を聞いてくれる まちづくり関わっている職員の意識が高い。 情報発信の仕方が良くなった。広報だけ⇒SNSなど 会議にこない人たちにも動きが分かりやすい。 補助金を出してもらえる(少し)	ほめられない、何をやっても。 職員が少ない。 町の面積が広い 息をひそめて生きている。自分を出せない。 法律に規制される。 インフラ対策 首長の一言で揺れる。 町民の想いが届いているか？
企業	祭りの寄付金を出してくれる 社員を行事に参加させることができる	景気が悪いとお金を出さない。 社長に左右される。
商工会		商店街シャッター街になっている。人が少ない。 日中人が少ない。
住民 地域コミュニティ 地域公民館 PTA 見守り隊 夏祭り実行委員会 スポ少	PTAの小規模校の方が意識が高い。 地域の人も小規模校は協力的 交流しやすいライン友達！ 参加者の意識が高くなる 元気な老人が多い！	戦後教育の結果、子どもに自由に暮らしてもらいたい。 (自分たちが強制された人たちは) どう広めていくか。 人がいない 高齢化 農業者人口の減少で集まる時間帯変化 意識の変化 優先順位の変化(地区行事への意識も下がってきている) 核家族化 会議が重なって大変 参加者同じ人 町への依存 町で買い物しない。



●「協働の主体って？」・・・まちづくりの主体を探る

【2班】

区分	強み	課題
個人	動きやすい 地域の人達とのつながりをつくる(交友範囲が広がる) 必ず出来ることがある	資金がない 強制力がないと絶対に動かない しかし出来ないこともある
	いろんなやらなければならないことはあるが、出来ること、出来ないことで参加を選ばせることも必要	
地域コミュニティ	行事等で人集めしたい時頼りになるよ！(行政区、コミュニティ) 参加すると大切にされる(新しく) いろんな人材、資源、機能がある	めんどくさい感を前面に押し出してくる人がいる。 班長にならないと活動に参加しない。(なったら仕方なくやるけど…) 代表者・権力者の強い意見に押されがち 参加者が少ない、限定
企業 団体 組合	個人より資金力はある 災害の時に頼りになるよ！(建設業) 地域貢献してるよ！(建設業) EX)草刈り、花植え 仕事柄、地域に絡む機会が多い。	活動には制限がある(企業目的) 常時活動に参加できない。(地域貢献活動の名目じゃないと動かない) 人手不足だよ(建設業) なり手がいないよ(建設業) 時間が合わない⇒いつでもよばれる時も。
行政	資金有り 予算さえつければ大きな資金を動かすことができる	予算があるので目的外の使用はできない いろいろやってる(忙しい)仕事だけじゃなく 何だり声かけられる⇒極論やらされてることも？ 断れない、断ると不満が生まれる 一律のサービス。えこひいきできない。 職員の数もっと欲しい
NPO	民間と行政の間(どっちも行ける) フットワークが軽い、中立的	やりたいこと(ミッション)だけやっている。 そもそも活動内容が不明(非営利組織って?)
家庭	生きる根本団体 他人よりは話し合える最小の単位	悩みがすべてに影響する 場合がある 誰かが出ればいいんじゃない、という意識が強い(地域活動に対し)



●「協働の主体って？」・・・まちづくりの主体を探る

【3班】

区分	強み	課題
住民 行政区 自治会 公民館 婦人会 消防団 老人クラブ ボランティア ふれあいサロン コミュニティ	何かしらのネットワーク 自由 気づき(本当に細かいところまで) 地域ならではの	同じ人しか出てこない 担い手不足 高齢化
学校 中学校 小学校 高校大学	若さ 集団	少子化
行政 公民館(市民センター) 消防団 警察	リーダー的存在(ルールを引く) まじめに見える なくなる恐れが少ない	スピード感はない (法律等のしがらみがある)
NPO 子育て支援 福祉(高齢者) 復興支援	自由度高い スピード感、フットワーク 専門性 信頼性高い(企業より)	なくなる恐れ有り
社協	福祉に特化(一生涯) 全国的なネットワーク スピード感、フットワーク	資金不足 多忙
企業 郵便局 体育協会 商工会 農協 観光協会 福祉施設 医療機関 銀行	専門性圧倒的！！ スピード 利益	なくなる恐れ有り



3班発表



4班発表

●「協働の主体って？」・・・まちづくりの主体を探る
【4班(協力隊)】

区分	強み	課題
NPO	自由に動ける 信頼がつく	
企業	お金がある 利益を求める	動いてくれるかな？ 利益を求める
農家 組合	同じ方向を向いている 団結力がある	人数が集まらなると弱い 忙しい時期がある
行政	町全体を動かせる(条例) 全体を把握できる 信頼がある 強制力がある(条例)	平等が求められる 自分の意見が言えない 行政の人と思われる(個人でも) 担当が変わる 行政に悪いイメージがある人もいる…
社協	地域のことを知っている あやこさんがいる！強制力がある。	
住民	責任があまりない 地域のことを(気づかないながらも)良く知っている	興味がない人もいる 人数の変動がある
学生	学生だから許されることがある 自由	地域のことをあまり知らない、入りづらい 交通の足がない
協力隊	外からの目線・意見 どっちの立場にもなれる 地域のことを知っている	貧乏 3年で終わる
障がい者 外国人	バリアフリーなど必要な個所が分かる 違った視点がある 個人の意見がある	会議に出てきにくい
少数派	ある意味注目される	長いものに巻かれる 多数決で負ける
子ども	活動を盛り上げる力がある 小中学校のつながりて人を集めやすい	参加資格がない
夫婦	同じ目的？子育て 子育て目線がある	子育て
お母さん・婦人会	料理上手 母性 女性のつながり	会議に出てきにくい？忙しい？
ボランティア	費用が掛からない 意識が高い 自己実現しやすい	

■まとめ

(小野寺委員)

○今日の話し合いでは、協働のイメージが皆さんの意見は全然違ったと思うが、それが大事なこと。協働のイメージも違うし、思っていることややっていることも全然違う。それに対し、行政は「協働していきましょう」と言ってしまっている。それぞれイメージも考え方も違う「協働」をしましょう、と推進しているが、今日の話し合いで大事なものは、協働のイメージはまだ決まっていないことを共有すること。だからみんなと議論して、協働の定義を作って、この場はごく一部の集まりだが、もっと広く住民に広げていくことが必要になる。協働のイメージは、今日は決められないが、たくさん出たイメージの中から、雫石町の協働の定義はココを大事にしよう、という視点を、これから議論していく中で見つけ出していきましょう。

○今日のポイントとして、協働のイメージはそれぞれ違うものを持っている、ということ。それを行政は「協働」という一つの言葉で進めて行こうとするのが難しいので、皆さんと議論する場が設けられていることが大事なプロセスなので、この会議を大事にしていきたい。

○2つめのワークテーマの協働の主体について、先ほどのワークの中でも「行政の立ち位置は」という意見も出ていた。「住民と行政が協働」というのがメインになるかと思うが、本当に行政と住民だけが

協働するものか、ということそうではないと思う。NPO、企業も含めて大きく4つに分けられると思うが、まず、それぞれが地域づくりにおいてどういう役割を担っているか、どういう課題を持っているか、を現状分析として共有して議論していただきたい。なおかつ、立ち位置についても協力隊の班から、「行政はちょっと引いた立ち位置で」というような意見も出ているので、協働したときの行政・住民等、それぞれの立ち位置について議論していくのも良いかと思う。

5. 総括

(若菜理事)

今日は課題を共有することが目的、協働とはこういうことを目指す、また、課題もたくさん出された。

これからのことを考えると、今ある課題を解決せずして新たに協働を進めるのは難しい。お互いに抱えている課題も解決しながら、あるいは協働によって解決する、協働で解決できない場合は他の方法で解決する、ということをししないと、どんなに立派な看板を掲げても無理でしょう、というところを今日は心の中に刻んでいただきたい。この課題や状況を分かったうえで、雫石の協働は何を目指すのか、それによって何を実現できるのか、ということ次回以降考えていただきたい。

(広田委員長)

今日の感想を大き目の付箋紙に、書いてほしい。

いろんな意見が出てその中に、行政の弱みとして「息をひそめて暮らしている、褒められることがない」という意見があったが、それは雫石では協働を実現していない典型的な症状。役場に何でも文句を言う、役場の職員が小さくなっているのは、協働が雫石町で実現していない、何よりの証拠である。かなり深い意味があるが、その部分はぜひ知ってもらいたい。住民や地域は行政に対して不満があると思うが、行政もまちづくりの主体の一つでしかない。そのことがなかなか理解されないが、そこを理解した上で協働を進めていかないと、真の協働となっていくかと思う。

6. その他

・7月10日(月)一関市視察について庶務担当から説明【別紙3】

7. 閉会 (企画財政課長 古川端)